

## 「2024年度決算R説明会」主な質疑応答

### <柏崎刈羽原子力発電所（KK）の再稼働>

Q：KKの再稼働はいつか。6号機と7号機どちらを先に再稼働させるのか。

A：当社としては、一日も早い再稼働を目指しているが、再稼働については、県民の皆さまのご理解あってのこと。引き続き、県民の皆さまのご理解がより一層深まり、ご信頼いただけるよう、コミュニケーションブースや視察などの様々な広聴・広報活動を通じて、ご疑問やご懸念に丁寧にお答えしていく。

また、発電所の現状として、7号機は準備が整っており、6号機は準備を進めている段階。今の段階では7号機、6号機の順に動かしていきたいと考えている。発電所の現場の安全を考慮した上で、地元のご理解や6号機の準備の進捗状況に応じて総合的に判断していきたい。

### <特定重大事故等対処施設（特重設）の工事行工程>

Q：特重設の工事計画変更の要因は何か。

A：特重設工事はこれまで実施したことのない初めての工事であったことで、工事期間が見通しづらい状況であった。敷地における設計条件等も影響し、工事物量や工事難易度が徐々に増加したことにより、非常に大規模な工事となっていたことが要因の一つ。

### <長期脱炭素電源オークション>

Q：2024年度オークションにおいてKK6号機が落札されたが受け止めは。今後7号機の応札も検討していくのか。

A：本制度は、2050年のCN実現に向けて脱炭素電源への切り替えを促すため、固定費を長期にわたり回収するという観点で設計された制度と認識。本制度を活用し、CN電源を安定的に供給することで、2050年のCN実現に貢献できると考えている。

7号機に関しては、オークション募集要綱において、自己の応札情報等について、OCCTOから公表された情報を除き公表出来ないこととされている認識であるため、落札電源以外の当社対応については回答を差し控えたい。

### <資金調達環境>

Q：負債の調達環境に変化はあるか。

A：4月初旬以降の大幅な市場環境の変化を踏まえ、投資家需要や市場環境等を総合的に勘案し、引受証券会社と協議のうえPG債の発行を見送ることにした。新たな起債時期は、現時点においては最速で5月を予定しているものの、市場環境等を踏まえて検討してまいり。借入に関しては、引き続き与信維持等のご支援を頂いている。

#### <特別負担金>

Q：特別負担金700億円の負担金水準の受け止めは。

A：特別負担金の額については、機構法において、当社の収支の状況に照らし、事業の円滑な運営の確保に支障が生じない限度において、できるだけ高額な負担を求めるものとされ、最終的に主務大臣の認可を受けたうえで当社に通知いただいたものと認識しており、当社として意見する立場にない。

#### <小売の競争環境>

Q：小売りの競争環境に変化はあるか。

A：2024年度は市場価格が低位安定で推移し、お客さまも価格重視にシフトすることで、競合他社の攻勢が強まり厳しい競争環境となった。

料金設定へのお客さまの声や、契約更改の状況を踏まえ、2026年度の電気料金は2025年度と比較して基本料金を低く、従量料金を高く設定するリバランスをEPにおいて検討している。

#### <燃料デブリの取り出し>

Q：2回目の燃料デブリ試験的取り出し作業を完了した受け止めは。

A：今回採取した燃料デブリに加えて、前回採取した燃料デブリを含めても、これだけで2号機燃料デブリの性状を全て推定できるものとは考えていないが、少量でも多くの情報を得られることができ、今後の取り出しに向けた工法の検討等にも役立てることができると考えている。

以 上